

<今回>212回目 2017年6月2(金)16時~19時 1503号室  
読書は8冊目「邪馬壹国の論理」261P 海賦と壁画古墳 より

<前回>211回目(17-5-26) 出席者7名

資料 17-05-08-1) 前回のまとめ(清水)

-2) 七支刀(宮崎市定著の紹介)(清水)

## A 報告

5月18日から20日倭の5王と装飾古墳の旅に4名参加した。こうやの宮の辺春さんから読書会の最中に電話がかかり、地元でも知らない人が多いので地元の機関誌に今回の訪問を報告したい。ついては正式の名前を教えてください。多元的古代研究会。こちらからは案内してくれたあと2名の名前を聞いたが1名は鍵当番の江崎三雄さん、もう一名は知らないという。鍵の副当番の方を連れてきたのだろうと思うが辺春さんも名前は知らないという。田舎の人口の少ない村と思うが日常の接触はないのかと疑った。

津多屋9609円(1500・6)-609円

B 資料 -2) 文献学者宮崎市定氏の七支刀の銘文解釈を紹介した。漢文読みには自信があるという。私の9年前の読解である。百済王と倭王は対等。倭王旨の読み方は外交文書と同等の贈り物に実名を記すことは絶対がないというのが骨子である。旨は嘗の略字で初めて知るの意味という。日本書紀の神功紀の七支刀と古事記の横刀に記事は同じという立場、古田先生は人物名も異なるから違う記事の立場。日本書紀の書きようから日本書紀作成時点で天理の石上神社にあったものではない。この時分は下賜か上献が問題になった時代に古田、宮崎とも対等説では一致。

## C 読書 p255 九州王朝の古跡

1) 古田の論は理屈ではわかるが納得できないという人がいる。学問は理屈でなく信仰の問題かといいたくなる。実際に九州王朝の遺跡がある。

①太宰府そばの九州歴史資料館には太宰府出土の瓦が大量に展示されている。またより古い形の「塔原廃寺」の瓦が展示され廃寺で寺の名前はない、寺か役所かも不明。

②基山山城には比叡山の堂塔のように多くの堂寺の礎石や地名が残っている。頂上の城跡の門の名前には北帝門、仏谷門、萩原門の名がある。萩原門は萩原村に続く道の門だから分かるが、北帝門、仏谷門は近畿にはないから近畿の模倣ではない。隋書の多利思北孤は天子と佛教の2つを結び付けている。

③日本書紀欽明紀の23年8月に狭手彦を遣わして高麗を伐たしめ戦利品として鉄屋(くろがねのいえ)を得た。A 鉄屋は長安寺に在り、B この寺いずれの国にあるということ知らず(日本書紀の編者は知らなかった)。朝倉社恵蘇八幡宮 社僧の坊を朝倉山長安寺という、朝闍寺なるべし(太宰管内志)長沼賢海著邪馬台国と太宰府参照。筑紫の朝倉郡に長安寺があったのだ。

2) ここまで読んで辺春さんから電話が入り。案内人の名前を聞く。地元の鍛冶屋が七支刀のレプリカを銘文入りで作って公民館に飾っている人もおるが大部分の地元の人は知らない。

3) 銘文 泰和四年〇月十六丙午正陽造百鍊鑄七支刀生辟百丘宜供供候王 〇〇

先世〇来未有此刀百慈王世子奇生聖〇故為倭王旨造伝示〇世

次回日程 17-6-26(月)16時から18時 1503号室

7-7日(金)16時から19時 1503号室

7-24(金)15時から18時 1503号室